

主な内容

2・3面 **特集1** ご遷宮、着々と進行中
萱葺屋根の萱材は8年かけて
御装束神宝は順調に調製中

4・5面 **特集2** 今年は「おかげ年」
おかげ横丁、おかげ座 ほか
「おかげの国」へようこそ

6・7面 その1・五十鈴川めぐり
その2・鳥羽・志摩めぐり

8面 いせびと歳時記

いせびとニュース

第 **1** 号

新緑におろし 神苑に舞う

陽光ふりそそぐ神苑で
楽師の奏でる調べにあわせ
蝶となって舞う舞女たち。
近づくご遷宮への祈りを込めて
「春の神楽祭」。



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

春の神楽祭より「胡蝶」 撮影／阪本博文

春の神楽祭

神苑の桜が爽やかな葉桜となるころ、恒例の「春の神楽祭」が行われる。

内宮神苑の特設舞台の上で披露されるのは、みことな衣装による舞や雅楽の生演奏。まじかに見られるとあって、参拝者が心待ちにしている祭りだ。

今春のプログラムは、舞台を蔽い清める「振鉦」で始まる。金の鉦、銀の鉦を手にした二名の舞人による勇壮な舞だ。

次に、十二年ぶりに演じられる「五常楽」。男性四名によるゆるやかなで優美な舞。五常とは、人が守るべき道徳、仁、義、礼、智、信のことという。

三番目に「胡蝶」。舞女四名による春らんまんの風情ただよう舞。山吹の花を天冠にかかげ、背に極彩色の大きな蝶の羽をつけ、手にも山吹の花をもって花園に遊ぶ蝶のように舞う。

最後は「長慶子」。楽師による奏楽で、舞楽の終わりを告げる拍子の早い曲。およそ四十五分間の舞台となる。

三年後のご遷宮では、楽師たちには宮遷りの道中に「道楽」を奏する大切な役割がある。前回の経験者で楽長の森井富男さんは「浄閣の中、歩きながらの演奏には緊張しました。来年には楽師たちと練習を始める予定です」と語る。

春の神楽祭

日時 4月28・29・30日
午前の部 11時より
午後の部 14時より
会場 伊勢神宮
内宮神苑 特設舞台
*雨天の場合、参集殿にて開催。

遷宮への道

特集1 ご遷宮、着々と静かに進行中

萱山に軽快な鎌音がひびき 二万三千束をめぐりし収穫すすむ

伊勢神宮のご遷宮まで、あと三年余り。気になるのは進行状態だ。神宮の社殿といえ、まず目に浮かぶのが萱葺屋根だが、その萱材のすべては地元的神宮御萱地で育てられる。今回は、最盛期を迎えた萱材の調達に注目しよう。



冬晴れのもと、萱刈りがすすむ。

萱刈りは 収穫の冬に

宮川の中流域、度会町川口に神宮御萱地九十九ヶ所がある。



葺き上がったばかりの神殿。(平成5年撮影)

年、全国の青少年による奉仕隊が雑木や植林の山を開墾。萱地として造成した歴史があり、萱地の中にその記念碑も建っている。

八年かけて 二万三千束

緩やかな山の斜面は、見渡す限り萱の原。春には芽吹いたばかりの萱が緑の絨毯となって起伏する斜面をおおいつくす。秋、ススキの穂が出そろると、吹きわたる風に銀色のさざなみが山肌広がる。そして、収穫の冬。一面の枯野となった御萱地に手刈りの鎌音が軽快にひびく。二割以上に育ったみことな萱が手際よく刈られ、束ねられていく。

伊勢神宮の萱屋根は、思いのほか数が多い。内宮の御垣内だけでも、正殿、それを囲む垣ごとに三つの門、東西の宝殿、四丈殿、と七棟が萱葺だ。さらに外宮の御垣内、別宮、所管社の萱屋根などを含めると、四十棟余りの屋根を萱で葺くことになる。

それに必要とされる萱は二万三千束。一束は百二十ヶの縄で結



萱場を見回る中川さん(左)と久保田さん。

わえる量で、刈り取ったばかりの萱の重さは、一束四十き近い。「現在、約一万二千七百束できていますから、ご遷宮の一年前には山田工作所の萱小屋が満杯になります」。神宮司庁萱林部の中川典之さんは、明るい表情で八年がかりの備蓄計画が順調にすすんでいるようすを語る。

志摩から萱刈り百人

久保田登男さんは、神宮の囃託を受けて萱場の現場見回りを務める、いわば「萱場の生き字引」だ。

「刈り取りは一月から三月までと決まっていたんやけど、近頃は新芽の出るのが早くなってな」二年前からひと月早めて、十二月から二月までに変更した。刈り取りのときに、萌え出たばかりの新芽を痛めてしまふからだ。地球温暖化がここにも異変をもたらしている。

ふだんは、一人で萱山を守っている久保田さんだが、萱刈りの時期は例外だ。一日に百人ほどの助っ人が通ってくる。そのほとんどが働き者で知られる志摩の女性たち。冬は海女漁も真珠作業所も手すきな季節だということもある。

標高260mの萱場。



それにしても、山の斜面で腰をかがめての刈り取り作業はたいへんに大変だ。前回の遷宮にも萱刈りをしたという松井千年さんにたずねると、「神様のお屋根づくりやで、感謝してやっとります」と笑顔がかえってきた。

檐付祭で葺き始め

萱屋根の葺き始めは、二年後、平成二十四年の檐付祭からだ。前回にもまして萱葺職人は手不足が心配される。今回も萱葺屋根の文化財の多い府県に声をかけて、萱工を募ることになるという。

葺き上がったばかりの萱屋根は、清々しく美しい。温かな心地よさを覚えるのは、わたしたちが自然素材の中で暮らしていた遠い記憶がそうさせるのかもしれない。

風日祈宮橋、火除橋(内宮・外宮)、今年中に架け替え完了



風日祈宮橋の仮橋。

昨年の宇治橋につづき、宮域にある橋はすべて本年中に新しく架け替えられる。外宮では、表参道と北御門参道の火除橋、内宮でも、表参道と裏参道にかかる火除橋、それに風日祈宮橋が新しくなる。

風日祈宮への参道となる風日祈宮橋は島路川にかかる。ミニ宇治橋ともいわれるほど姿の美しい和橋で、宇治橋と同じく(株)間組のもと、宮大工、船大工の伝統技によって九月竣工をめざして建設がすすんでいる。間組の矢野竜也所長は、「この橋は百十四尺ですから、宇治橋の三百尺からすると半分くらいのスケールですが、手間は同じこと。気は抜けません」と語る。



上/東ねた萱は山田工作場へ運ばれ、萱小屋で乾燥・貯蔵される。左/檐付祭。(前回、平成4年撮影)



伊勢名物

あかふく

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) フリーダイヤル 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>



先代の故・古澤裕司さん。(昭和63年撮影)

(注) 唐組平緒(からくみひらお) 平緒は太刀を身に着ける帯で、全長三七〇センチ、幅十二センチ。神宝中の随の華麗さで知られる四振り(の太刀)に付属するものとして四糸のみ製作される。(注) 大神宝(おおいしんぼう) 天皇即位二世二代に限って伊勢の神宮に奉られる神宝のこと。

近年、日本の伝統工芸には急速に衰えたものが少なくない。私たちが身の回りで、かつては漆芸、竹芸、木工などの匠の手でつくられていた品々がたやすくプラスチックツクにとつてかわる時代だ。「もし、成り行きに任せていけば、神宮の神宝類にも途絶えるものが多い数でてくるでしょう」。前回の遷宮にひきつづき御装束神宝を担

だ。組紐師の家に生まれ、ごく自然にこの道に入ったという若手だが、「神宝の仕様に叶った技術力をもつのは、この方をおいてほかにいない」と采野さんはその仕事ぶりを高く評価する。父親の祐司さんが「唐組平緒」を人間国宝・深見重助氏から伝授されたのは、前々回の遷宮の時。

「唐組平緒」の伝承は、一体どうなったのか。祐司さんがまだ健在なとき、平成元年に天皇陛下下のご即位の儀式が行われた。それにもない一代ただ一度のみ行われる大神宝(注2)の奉納のために、急遽、祐司さんは「唐組平緒」を組むことになった。虫の知らせというおうか、その時に息子・康史さんへ技法の奥義を伝えていたのである。

師から弟子へ、親から子へ、伝承が結実する御装束神宝

燦然と輝く太刀、優美な綾錦の御衣、華麗な彫馬...「遷宮のために新調される御装束神宝は、伝統工芸のさまざまな技法を結集して、調製される。その数、七二四種一五七六六。伝承という重い課題を乗り越え、当代一流の工匠のもとで着々と進められている。

心と技の伝承をかけて

当する神宮式年遷宮造営庁の采野武朗技師は、その将来に危機感を抱いている。「伝承できるか否かは、伝えるのだ」という強い意志にかかっていると、思っています。その強い思いが幾度かの危機に活路を開いてきたという。

師から弟子へ

神宮の神宝に伝わる種々の組紐のなかに、二十一年に一度、神様の御料としてのみ組まれる「唐組平緒(注1)がある。今回、初めてその調製に当たったのは、東京・世田谷に住む古澤康史さん(40)

親から子へ

来る遷宮(平成二十五年)の「唐組平緒」は、わが子に技を伝授しながら共に取り組める、と祐司さんは楽しみにしていたに違いない。ところが、祐司さんは五十六歳という若さで急逝したのだ。「唐組平緒」の伝承は、一体どうなったのか。



草木染の絹糸432本を練り唐組平緒を組む古澤康史さん。

深見氏はこの技を弟子に託したあと、ほどなく他界された。前回の遷宮では、技法を師から継承した祐司さんの精魂を込めた四糸の「唐組平緒」が神の御料として神殿に納められた。

「ご神慮という言葉がありますが、年遷宮から行われてきた遷宮の核まさにそうとしか思えないタイミングの伝承でした」と采野さんは振り返る。新しい社殿に、新しい御装束神宝を供える。これは、千三百年前の第一回式注目されている。

神宝の組紐

御装束神宝に付随する組紐は、およそ五十五種、九百五十六条、延べ八千三百尺(二千五百十五メートル)。十数年をかけて製作される。なかでも、太刀を身に付けるための唐組平緒は起伏のある変化にとんだ組織で風格があり、組紐のなかの王者といふべき。

御装束神宝を展示する神宮徴古館



神宮の徴古館は、開館100周年を迎えた歴史ある博物館だ。神前からお下げした神宝類をまじかに見ることができる、唯一の施設でもある。現在展示されている御装束神宝は、おもに昭和48年遷宮のときに下げられたもの。華やかな鞍をつけた鶴斑毛彫馬、神宝

の太刀の中で一番長い第一御太刀、太刀を身に着けるための薄柿色唐組平緒など、いずれも、何人も匠たちの秘技を結集して仕上げられたもので、日本の伝統工芸の水準の高さが見てとれる。館内には、ほかに神宮ゆかりの貴重な資料や文化財、美術品が展示されている。

開館時間 9時~16時30分(入館は16時まで)
休館日 月曜(祝日の場合は翌日)、年末3日間
入館料 大人300円、大学・高校生150円、小・中学生100円
電話番号 0596-22-1700
交通機関 近鉄宇治山田駅か五十鈴川駅・JR伊勢市駅より徴古館経由の外宮内宮循環バスで徴古館下車徒歩3分、「CANバス」利用なら徴古館下車すぐ

ゆとりとやすらぎの宿
神宮会館
(財)伊勢神宮崇敬会
内宮に一番近い宿・歩いて5分
どなたでもご利用いただけます

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517
<http://www.jingukaikan.jp>

早朝参拝の
ご案内をしております。

伝えたいものがあります
神宮のお膝元・伊勢で、日本の「歴史」「伝統文化」「神道」を学び、
充実したキャンパスライフを送りませんか。

皇學館大学
<http://www.kogakkan-u.ac.jp/>
・大学院 専攻科
・文学部
(神道・国文・国史・コミュニケーション学科)
・教育学部(教育学科)
・現代日本社会学部(現代日本社会学科)
・社会福祉学部(社会福祉学科)
法人本部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL 0596(22)0201(代)/FAX 0596(27)1704

皇學館大学
<http://www.kogakkan-u.ac.jp/>
・大学院 専攻科
・文学部
(神道・国文・国史・コミュニケーション学科)
・教育学部(教育学科)
・現代日本社会学部(現代日本社会学科)
・社会福祉学部(社会福祉学科)
法人本部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL 0596(22)0201(代)/FAX 0596(27)1704



歌川広重「伊勢参宮 宮川の渡し」

特集2 六十年に一度の おかげ年!?

お伊勢参りは、春の季語。春先に参宮客が増えるのは毎度のことながら、近ごろ参拝者数が例年を越え、さらにじわじわ増えつついている。江戸時代のおかげ参りフィーバー「おかげ年」の再来か——？歴史を繰ると、「おかげ年」に当たる「おかげ年」に当たる。



江戸期の新記録、 百十四万人

お伊勢参りの歴史は古い。平安時代には熊野詣と人気をわち、江戸時代になると、せめて一生に一度でもと国民的願望の旅になっていた。村々に伊勢講という相互扶助組織までできたが、それでも庶民の誰もが参宮できたわけではない。ところが――。

大海原のうねりのように、大勢の善男善女がわれもわれもと伊勢参りにやってくる大ブームが江戸時代に三度あった。ほぼ六十年周期である(コラム参照)。

一日に十四万人が宮川を舟で渡り伊勢参りをしたという文政十三年の「おかげ参り」。それからことしは百八十年目。平成の「おかげ参り」が始まった、という見方もあるが……。

伊勢の歴史に詳しい「五十鈴塾」塾長・矢野憲一さんに聞いてみた。「参宮の長い歴史をみると、大小

さまざまなうねりがあります。不景気とか、世の中に手詰まり感があるときにうねりが大きくなる傾向はありますね。今回は、ご還宮への期待感、加えて、よりよい世の中へ変わってほしいという「世直し」への願望、さらには、若い世代のパワースポットを求める風潮などが参宮をいざなっているのでは……」と推測する。

「おかげ」の信仰、
「お礼」の信仰
ところで、おかげ参りの「おかげ」とはどんな意味があるのだろうか。矢野塾長いわく「おかげ」とは、「おかげさまで」と挨拶するように、神や仏をはじめとする自分の周囲の人や物など全てに対する感謝の念を表す言葉です」
江戸時代のフィーバーのような参宮も「おかげ参り」と呼ばれるが、「もともと伊勢の神宮に参ることを「おかげ参り」というのです」
明治神宮など一般的な寺社参りの場合は、「ご利益を祈願し、それに対して「お礼参り」をする。お伊勢さんはそこが少々違う。「つまり、伊勢の信仰はひたすら感謝する「おかげ信仰」なのです」
神前で世俗的な願望を並べるのではなく、「神恩感謝」を祈るという明快さ、純粋さが本来の伊勢信仰であるようだ。
そして、神様から新たなエネルギーをいただき、癒されて元気になる。それは、江戸時代に大きなうねりとなって全国からやってきた善男善女たちも同じだったに違いない。



矢野憲一(やの けんいち)さん
NPO法人「五十鈴塾」塾長。40年間神宮に奉職した元神宮禰宜。その間、神宮司庁文化部長、徴古館農業館館長などを歴任。著書に『伊勢神宮の衣食住』(角川ソフィア文庫)、『伊勢神宮知られざる杜のうち』(角川選書)、『鯨の世界』(新潮社)など多数。近く法政大学出版局から、ものと人間の文化史シリーズ『禰』を出版予定。

NPO法人五十鈴塾
日本の伝統文化、生活文化を体験するさまざまなジャンルの講座やイベントが行われている。
問い合わせ
〒516-0026伊勢市宇治浦田町1-5-3
☎0596-20-8251
http://www.isuzujuku.org

江戸時代の「おかげ参り」の
おかげ参りフィーバー
江戸時代、庶民にとってお伊勢参りは、せめて一生に一度でも、と歌われた憧れの旅。しかし、てくてく歩き時代だから、日数はかかる、路銀はかさむ、道中の安全は心もとない、と個人旅行のハードルは高かった。一方、身分制度にがんじがらめの封建社会にあつて、なんとか日常から抜け出したい思いで鬱々。そこへ政情不安とか、不景気とか加わると、ついに爆発してしまふ。
江戸時代の「おかげ参り」の
のぼり(神宮徴古館蔵)
そんな背景のもとに伊勢参りフィーバーが起きたのは、大きいものだけで三度。宝永二年(一七〇五)、明和八年(一七七二)、文政十三年(一八三〇)。およそ六十年周期である。
文政十三年のおかげ参りのときは、三月〜八月の半年間に四百五十万人が参宮した。当時の日本人口は現代の三分の一ほどだから、国民の五人に一人が伊勢参りをしたことになる。旅人は仕度もそこそこ飛び出してきた者も多かったが、沿道の村びとたちが握り飯や草鞋を、富裕な家は路銀などの施行を行い、多くの人が無事に伊勢参りを果たすことができたという。

http://www.iwatoya.co.jp



伊勢・内宮前おはらい町
岩戸屋
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322
PEARL BOUTIQUE
珠魔
TEL 0596-23-6750
伊勢の上座&平座料理
百舞者
TEL 0596-23-3236

おかげさまで
創業百周年
お多福とともに岩戸屋は
今も昔も内宮前



名物岩戸餅

海獣たちとふれあえる
家族みんなが楽しめる
水族館



セイウチと記念撮影

いろいろな海獣にタッチ! シーパラはふれあい水族館

さわれる!
遊べる!
写真も撮れる!

ふれあい水族館 伊勢志摩国立公園/二見町
二見シーパラダイス
http://www.futami-seaparadise.com

株式会社 夫婦岩パラダイス
三重県伊勢市二見町江580
TEL 0596-42-1760(直通)
0596-43-4111(代表)



おかげの町でおかげ発見

伊勢びとは、おかげのつく言葉が大好きだ。皇大神宮内宮のお膝もと「おはらい町」を歩くと、それがよくわかる。お伊勢さんのおかげで元気をもらい、旅人たちをもてなしてきた町なのだ。

おかげ横丁、もうすぐ二十歳

伊勢神宮内宮前町の真ん中にある「おかげ横丁」。朝の九時五十五分に、櫓の宮太鼓が「ドン、ドドン！」と鳴り響く。すると、店の前に従業員たちが並び、神宮にむかって拍手をパン、パン！深々とおじぎりする。

「おかげさまで、きょうも一日、がんばらせてもらいます」と。

おかげ横丁が店開きしたのは、前の遷宮の年、平成五年七月のこと。今度の遷宮でちょうど二十歳を迎えることになる。

二十年前、おはらい町の人通りは年間二十万人と淋しかった。ところが、おかげ横丁ができて、今では約四百万人、二十倍にもなっています。年中正月のよう。江戸のおかげ参りのときは、こんな感じだったのかも知れない。

「おかげ座」で

おかげ参り体感

伊勢名物を商う店々をのぞきな



ざわめきも聞こえてくる。参宮街道。



名調子で案内する岡崎寿美さん。松阪もめんの着物がよく似合う。

がら横丁をすすむと、芝居小屋のような賑はためく一画がある。

「おかげ座」だ。

木戸銭三百円ナリを払うと、着物姿の女性にっこり笑顔と口上つきで案内を始める。

気分はずでに江戸時代。宝永二年、おかげ参りにぎわう伊勢にタイムスリップだ。参宮街道や古市の遊郭に、行き交う旅人、飛脚、遊女たちなど、およそ百人。きちんと二分の一の縮尺で造られているが、だれもかれも実にいきいきしていて見飽きない。

「当時の一両は、いまのお金でざ

つと十万円。旅人たちは、大事なものは着物の襟に縫いこんで…」

と案内人は昔の旅のノウハウも面白おかしく語って聞かせてくれる。

もちろん、質問すると即、答がえってくる勉強家だ。

映像シアターで往時の伊勢参りのあらしを十五分、案内人とのミニ参宮街道歩きが十五分。おかげ座は半時間で、江戸のおかげ参りを堪能させてくれる体感劇場だ。

●おかげ座(おかげ横丁内)

観覧所要時間 約30分

大人300円・小人100円

10時～17時(季節によって変動あり)

05966251126

「内宮おかげ参道」

マイカーで参宮する場合に便利な浦田町の市営駐車場。車を降りて、内宮・おはらい町方面へむかう時にくぐる地下道が「内宮おかげ参道」だ。

この参道は、おはらい町への玄関口。現世から「おかげ」の世界へ抜け出るタイムトンネルといえよう。

地下道に入ると、あっと思わず目を見張る。両壁面にながしい屏風が連なっている。題して「伊勢参道 おかげ参り・抜け参りの図」。京都の三条大橋からはじまり、伊勢の内宮まで五日間の旅が描かれている。街道にはさまざまな姿の善男善女が所狭しと描き込まれていて、その数はざっと二万人！原画の

長さ八十メートル！描かれているのは、おかげ参りのフィーバーが起きた宝永年間の参宮風景だ。作者は、現代の浮世絵師といわれた門脇俊一さん(一九一三年～二〇〇五年)。門脇さんが自分の還暦記念に描いたという大屏風絵なのだ。

壁に近づいてよく見ると、屏風と見えたのは陶板だ。美術品を陶板に焼き付ける技術で定評のある大塚オーミ陶業(株)、近江陶業(株)が担当して、原画の風情をそのまま再現することに成功したものだ。(原画は個人蔵)

地下通路を整備するにあたり、伊勢文化会議所が事業として取り組んだものだ。



「内宮おかげ参道」を彩る屏風絵。

「内宮おかげ参道」は屋根瓦も凝っている。鬼瓦かと思えば、どうやら西行、芭蕉、曾良とお見受けする。

伊勢の「おかげづくし」

伊勢慶酒「おかげさま」

伊勢市内唯一の造り酒屋・伊勢萬の「おかげさま」は神宮の森を流れる五十鈴川の伏流水で醸されるフルーティな清酒。おかげ横丁の入り口左手の内宮前酒造場では、他におかげさまの梅酒や純米焼酎もあり、店内ではいろいろな地酒を飲むことができる。

●伊勢萬 内宮前酒造場
純米焼酎(720ミリ) 1365円、にこり梅(720ミリ) 1640円、おかげさま(1800ミリ) 3280円
開9時30分～17時30分頃
伊勢市宇治中之切町77-2
0120177381

旭湯 おかげ風呂

勢田川沿いにある「旭湯」は、汐湯で評判の純・銭湯だ。館長の酒徳三さんが二見浦へ朝夕出かけて新しい海水を汲んできては沸かしている。二見浦は昔から参宮者がみそぎをした清湯として知られるところ。癒される人気がある。
大人380円、小学生150円、乳幼児70円
開12時～24時30分
不定休(毎月1、2回)
伊勢市神久1-116(P有り)
05966251126

外宮前名物「御饌井」大あさりのおかげ井

御饌井とは神様のお食事にちなみ、大切な食べ物の井、という意味。市内各地の飲食店で伊勢志摩の食材にこだわった各店オリジナルの「御饌井」がある。(現在21店舗)「いちし」では、鳥羽産大あさりの上に、伊勢でしか育たない朝熊小菜(季節限定)の漬物をのせた「大あさりのおかげ井」(950円)が好評。白だしのあんがかかって上品な味わい。
●通レストいちし
開11時～15時、17時～20時
開木曜
伊勢市一志町9-3(P有り)
05966240809
●御饌井の問合せは—
伊勢観光活性化プロジェクト会議
http://www.isekanko.jp/

Advertisement for 'Uchikura' (豆腐庵山中) featuring images of soybean curries and text describing their quality and location in Ise.

Advertisement for 'Kobanomiya' (頭之宮四方神社) featuring a photo of the shrine and text about its services and location.



別宮4社が並ぶ「つきよみさん」。

春から初夏にかけては、清流に沿って歩く五十鈴川コースが心地よい。距離があるので、一日かけてめぐるとしよう。

最初に立ち寄るのは、別宮四社の「つきよみさん」とよばれる神域。四棟並ぶ別宮は壮観だ。(①～④)次に、興玉の森とよばれる小高い丘の上へ。苔が美しい宇治山田神社(⑥)は水の神をまつる。

やがてコースは、五十鈴川沿いに。右手に朝熊山を見ながらすすみ、五十鈴橋を渡ると、大土御祖神社(⑩)だ。神宮神田の御田植初

のときは奉仕の青年たちがこの境内に踊りこむ慣わしがある。

あと二百ほど足をのびして、神の御料米を育てる神宮神田の風景を眺め、Uターンしよう。

五十鈴川と朝熊川の合流する三角州にまつられる鏡宮神社(⑫)は三方を川に囲まれ、絶景の中に。次の朝熊神社(⑬)は内宮摂社の第一位。祭事も別宮に準じて行われ、三節祭には深夜に宵旛の儀が行われる。

最後に立ち寄る別宮・倭姫宮(⑯)は、大正十二年に鎮座した最も新しい宮で、皇女・倭姫命をまつる。

1月読宮 つきよみのみや「内宮別宮」祭神は天照大神の弟神、月読尊。四つ並ぶお宮の向かって右から二番目で、まずこのお宮を参拝する。月の神でもあり、水利農業の神として信仰が寄せられる。

2月読荒御魂宮 つきよみのあらみたまのみや「内宮別宮」祭神は月読尊荒御魂。

その一

「おかげの国」をめぐろう

12回シリーズ

月読の森から五十鈴川沿いに。五穀豊穡の神々、神宮神田をたずねて――

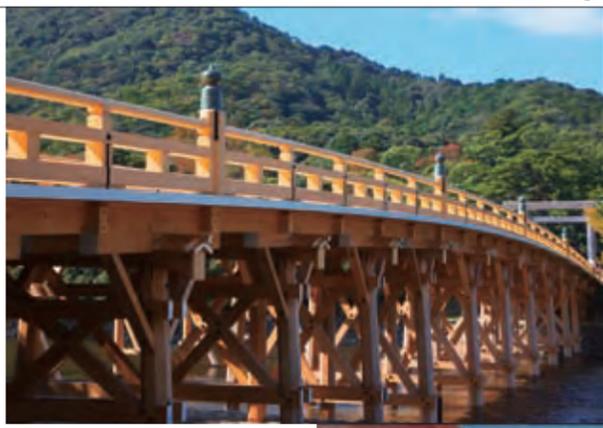
約12キロ
スタート&ゴール
近鉄・五十鈴川駅



月読宮境内にある樹齢約800年の大楠。



上/興玉の森。下/五十鈴川。



伊勢・鳥羽・志摩——「おかげの国」。

川辺に、岬に、みどりの森に、お伊勢さん百二十五社がたたずむ処。照る日も降る日も、おかげ参りの旅びとを迎えてきた町。悠久の時間が流れる「おかげの国」へ、ようこそ！



「おかげの国」は景勝の地。およそ二千年前、伊勢神宮の鎮座の始めから歴史をともしにきた、伊勢・鳥羽・志摩。温和な気候と豊かな海に恵まれ、景勝地の多い国立公園としても知られるところだ。

神事にかかせない清めの塩をはじめ、三節祭にそなえる御饌のワビをはじめとする種々の魚介や日々神様に供えるお食事のお米、野菜、果物など、食材のほとんどが、今もこの地域でまかなわれている。

五十鈴川めぐり

1月読宮 2月読荒御魂宮 3伊佐奈岐宮 4伊佐奈弥宮 5葭原神社 6宇治山田神社 7那自賣神社 8大土御祖神社 9宇治乃奴鬼神社 10国津御祖神社 11葦立弓神社 12鏡宮神社 13朝熊神社 14朝熊御前神社 15加努弥神社

スタート&ゴール

A 国産大豆のスイーツやフードが揃う「おとうふカフェまめく」 ☎0596-20-6793
B 日本最古の厄除け観音「松尾観音寺」 ☎0596-22-2722
C 31万冊余りを収蔵する神宮の図書館「神宮文庫」 ☎0596-22-2737

※ルートは歩いて巡拝することを前提としています。車が通行できない道も一部ありますので、ご注意ください。

「おかげの国」をゆけば、その山の美味にあやかれるのも、よそで味わえない楽しみだ。

「おかげの国」は心のふるさと

この豊かな地域に、伊勢神宮の皇大神宮(内宮)と豊受大神宮(外宮)をはじめとする百二十五社が鎮座している。

江戸時代には、両正宮を詣でたあと、ほかの宮々をめぐるとか、「おかげの国」めぐりでは、道中の風物を楽しみながら、川辺、海辺、みどりの森にたたく宮々をたずねる。ここは日本人の「心のふるさと」。自分をとりまくすべてに感謝する「おかげさま」の気持ちで歩いてくる旅となるだろう。

おかげの国とは

内宮・外宮を中心に神宮の百二十五社が点在する伊勢志摩エリアを「おかげ」を感じる土地として「おかげの国」と呼ぶ。「おかげの国」を旅する人をサポートし、情報発信する官民の組織「おかげまいりブランド戦略委員会(事務局伊勢市役所観光企画課内)」が、かつてのおかげ参りのような魅力に富んだ旅の提案に取り組み。問合せ0596-21-5565(同事務局)



参宮客をもてなす
おかげ茶屋
名物ステーキ牛丼をどうぞ

伊勢内宮前
〒516-0024
三重県伊勢市内宮おほら1町
TEL0596-224175
FAX0596-242510

http://www.nikodo.co.jp/

見よ、遊ぶ、味わう…
平成のお伊勢参りを体験しに
いつへんきておくんない。

伊勢 内宮前
おかげ横丁

伊勢市宇治中之切町52番地
☎0596-23-8838(総合案内)
http://www.okageyokocho.co.jp/



上/大正時代に鎮座された倭姫宮。左/若のじゅうたんが美しい宇治山田神社。

- ③ 伊佐奈岐宮 いさなのみや「内宮別宮」
祭神は天照大神の父・イザナギノ尊。
- ④ 伊佐奈弥宮 いさなのみや「内宮別宮」
祭神は天照大神の母・イザナミノ尊。
- ⑤ 葦原神社 あしはらのじんじや「内宮末社」
祭神は田畑を守護する三柱の神。その昔、この辺りが五十鈴川の葦(葦原)であったことがうかがえる。
- ⑥ 宇治山田神社 うじやまのじんじや「内宮末社」
五十鈴川の川水の守り神。祭神は大水神の子、山田姫命。倭姫命の定められた末社の那自責神社が同座。
- ⑧ 国津御祖神社 くにつみおやじんじや「内宮末社」
くにつみおやじんじや「内宮末社」
⑨ 葦立三神神社 あしだてさんじんじや「内宮末社」
祭神は国生の神の子、宇治比売命・田村比売命。国津御祖神は、楠部の里を守護する国の神様のこと。末社の葦立三神神社が同座。
- ⑩ 大土御祖神社 おおつちみおやじんじや「内宮末社」
うじのめきじんじや「内宮末社」
国生神の子・大國玉命、水佐々良比古命、水佐々良比売命の三柱をまつる。楠部の里の守り神として、里を生んだ神と、農耕を助ける水の神をまつる。末社の宇治乃奴鬼神社が同座。祭神は大水上神の御子、高水上命。奴鬼とは、新しく開墾した田野のことで、宇治楠部の新田灌漑の守護神としてまつられていたことがわかる。
- ⑫ 鏡宮神社 かがみのみやじんじや「内宮末社」
右手奥(東北)に大きな岩があり、この岩の上に、二面の神鏡がまつられていたと伝えられる。社殿背後の五十鈴川の川中に、虎石、潮干石と呼ばれる奇

お伊勢さん 125社とは

- 正宮(しょうぐう) 2社**
天照大神をまつる皇大神宮(内宮)と、豊受大神をまつる豊受大神宮(外宮)。
- 別宮(べつぐう) 14社**
正宮の「わけみや」の意味をもち、正宮と関わり深い神をまつる格の高いお宮。式年遷宮も正宮に続いて行われる。皇大神宮に10宮、豊受大神宮に4宮の別宮がある。
- 摂社(せつしゃ) 43社**
927年の『延喜式神名帳』に記載されている神社。皇大神宮に27社、豊受大神宮に16社の摂社がある。
- 末社(まつしゃ) 24社**
804年の『延暦式神名帳』に記載されている神社。皇大神宮に16社、豊受大神宮に8社の末社がある。
- 所管社(しょかんしゃ) 42社**
正宮や別宮に関わり、水や酒、米、塩、麻、絹など衣食住をつかさどる神々が多くまつられ、皇大神宮に30社、豊受大神宮に4社、別宮の瀧原宮に3社、伊雑宮に5社の所管社がある。



- ⑬ 朝熊神社 あさくまじんじや「内宮摂社」
内宮第一の摂社。祭神は、大歳神、若虫神、朝熊水神の三柱で、いづれも朝熊平野の田圃を守る五穀の神、水の神。
- ⑮ 加努弥神社 かぬみじんじや「内宮末社」
加努弥という社名は、地名の鹿海(かのみ)とで、かつては五十鈴川の河口を遡って海の潮の寄せていたことを示す名だ。石壇のみを築き、石神一体を祀る形式をそのまま伝えていく。祭神は五穀の守護神。
- ⑯ 倭姫宮 やまとひめのみや「内宮別宮」
祭神は、天照大神の御杖代となつて大和から伊勢に巡幸した垂仁天皇の皇女神饌をはじめ、数多くの摂末社を定めるなど偉大な功績のあったことを讃え、大正十二年(一九三三)十一月五日、別宮となつた。

岩がある。祭神は朝熊神社の御前神で、神鏡を鎮祭する。

⑭ 朝熊御前神社 あさくまひめのみや「内宮摂社」
内宮第一の摂社。祭神は、大歳神、若虫神、朝熊水神の三柱で、いづれも朝熊平野の田圃を守る五穀の神、水の神。

⑮ 加努弥神社 かぬみじんじや「内宮末社」
加努弥という社名は、地名の鹿海(かのみ)とで、かつては五十鈴川の河口を遡って海の潮の寄せていたことを示す名だ。石壇のみを築き、石神一体を祀る形式をそのまま伝えていく。祭神は五穀の守護神。

⑯ 倭姫宮 やまとひめのみや「内宮別宮」
祭神は、天照大神の御杖代となつて大和から伊勢に巡幸した垂仁天皇の皇女神饌をはじめ、数多くの摂末社を定めるなど偉大な功績のあったことを讃え、大正十二年(一九三三)十一月五日、別宮となつた。

伊勢神宮の御贄地のある鳥羽、神宮神田のある伊雑宮——離れた両地区を一度にめぐることのコースは、車か、徒歩と電車を組み合わせたのが便利だ。

鳥羽の駅前立つと、目の前にみどりの島々を浮かべた海がひろがっている。海岸沿いに東へすすみ、御木本真珠島、鳥羽水族館の前を通過して、加茂川の河口にまつられた赤崎神社(①)へ(昔ながらの商店街を通るコースもある)。車ならば、ここからパールロード経由で国崎へ。神宮御料調製

その二

鳥羽・志摩めぐり

海の幸豊かな御贄地をめぐり、内宮の遙宮へ

鳥羽 約26キロ
志摩 約22キロ
スタート JR鳥羽駅
近鉄・志摩磯部駅

おかげの国 めぐりの必携本!

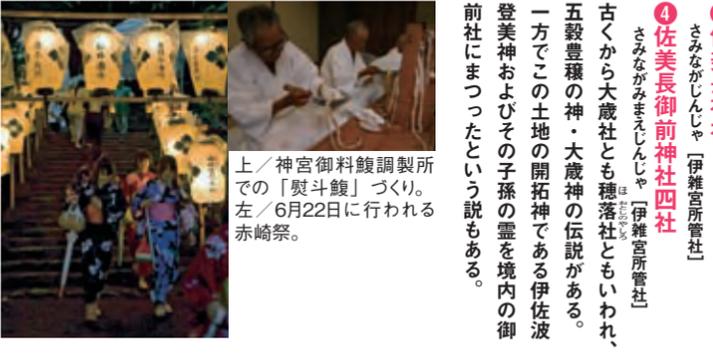


「おかげの国」めぐりには、「お伊勢さん125社めぐり」の携帯をおすすめします。歩いてめぐりに便利なMAPや、周辺の休憩処・土産物、伊勢神宮の知識など、旅に役立つ情報がもりだくさん。

●三重県内の主要書店、一部スーパー・観光施設ほかで好評発売中! 定価1260円
伊勢文化舎
☎0596-23-5166

① 赤崎神社 あかきじんじや「外宮末社」
祭神の荒崎姫命は、鳥羽湾の海辺から豊受大神宮に奉る御贄の守り神。「赤崎さん」と親しみを込めて呼ばれ、六月二十二日の例祭は「ゆかた祭」ともい。

② 伊雑宮 いざののみや「内宮別宮」
磯部の大神宮さんと呼ばれ、志摩一円の漁業関係者の信仰が篤く、特に漁師や海女さんは「磯守(海幸木守)」を受け、身につけて海に入るのが風習となっている。祭神は天照大神御魂で、古くから内宮の遙宮と称され尊ばれている。



上/神宮御料調製所での「製斗饅」づくり。左/6月22日に行われる赤崎祭。

③ 佐美長神社 さみながじんじや「伊雑宮所管社」
古くから大歳社とも稱され、五穀豊穡の神・大歳神の伝説がある。一方でこの土地の開拓神である伊佐波登美神およびその子孫の霊を境内の御前社にまつたという説もある。

④ 佐美長御前神社四社 さみながひめのみや「伊雑宮所管社」
この調製所のある鏡崎の先端に、倭姫命巡幸記念碑が建つ。太平洋の怒濤を一望する絶景の地だ。



内宮の遙宮・伊雑宮。佐美長御前神社四社。伊雑宮の御田植式(6月24日)は、日本三大御田植祭のひとつ。

伊勢 せきや

◆本社 伊勢市上地町2691-13
電話0596-23-1281(代)
☎0120-23-1281

◆本店(外宮前) 伊勢市本町19-19
電話0596-23-3141(代)

◆参宮楽膳 伊勢市上地町2691-51
伊勢問屋センター前
電話0596-20-3958(代)

◆内宮前店 伊勢市宇治中之切町87
電話0596-28-0081

E-mail info@sekiya.com
http://www.sekiya.com

「日本の心」を味に託して——
うましくに伊勢の銘品

独特の「醬」、一子相伝の「たれ」をたっぷり使い、手間を掛けて、ふっくらと柔らかく煮込んだあわびを「参宮あわび」とよばせていただきました。

あわび

美しく国をゆく

お伊勢さんのあとは鳥羽で湯つたりと

お泊まりは鳥羽へ

真珠婚式
鳥羽では毎月30日に真珠婚式を行っています。パールシャワーで祝福結婚30周年の記念日

◆好評「おいしいハイキング」
日程/4月4日17日 5月9日22日29日

鳥羽市観光協会 鳥羽市大明東町1-7 電話 0599-25-3019 http://www.toba.gr.jp/

いせびと歳時記

伊勢志摩の名産が集まる名物市

食と産業の神様・外宮にちなんで、伊勢地方の地場産品が並ぶ名物市。今回で22回目を迎える。約百店舗におよぶ屋台では、新鮮な魚介、伊勢名物の甘味から伊勢うどんや手こね寿司といった郷土料理...



伊勢市楽市のにぎわい。

理まで自慢の逸品がずらり。地元のお土産から、漁師や海女など出店者も多彩だ。「良い物が安く手に入る」と、市民や観光客など毎回たくさんの人でにぎわう。春と秋の2回開催される。

5月22日(土)・23日(日) 10時~16時
伊勢市駅前・伊勢神宮外宮周辺
伊勢市観光協会
0596・28・3705

斎王まつり

かつて天皇に代わって伊勢神宮に仕えた皇女・斎王ゆかりの地(明和町)で行われる。初日はステージ上でのライトアップが艶やかな前夜祭、2日目は総勢150名が華やかな行列をなす「斎王群行」が見どころ。ほか、太鼓、斎王の舞、アトラクション、斎王市など楽しみもたくさん。

6月5日(土) 15時~21時
6月6日(日) 10時~15時
伊勢市歴史博物館会場・上園芝生広場
伊勢市実行委員会
0596・52・0054

薫風の中、神田では古式ゆかしく御田植初

神宮のおまつり行事

成長と将来の幸福を祈る神楽を奉奏し、和紙の鯉のぼりが授与される。5日(祝) 倭姫宮・春の例大祭 伊勢市、倭姫宮 奉賛会による大祭。甘酒のふるまいや野点もある。5月上旬 神田御田植初 伊勢神宮神田 御田植え神事。三重県無形文化財。14日(金) 風日祈祭 伊勢神宮(風日祈宮ほか) 風雨の害なく、五穀が豊かに実るよう祈る。神御衣祭 伊勢神宮、荒祭宮 夏の御料(和紗(絹布)と荒紗(麻布))が供えられる。5月下旬~6月上旬



神田御田植初

1日(火) 御酒殿祭 伊勢神宮(内宮) 月次祭の御料酒がうるわしく醸造されるよう祈る。4日(金)~28日(月) 花菖蒲の献花 伊勢神宮神苑 肥後菖蒲・江戸菖蒲・伊勢

6月 1日(火) 御酒殿祭 伊勢神宮(内宮) 月次祭の御料酒がうるわしく醸造されるよう祈る。4日(金)~28日(月) 花菖蒲の献花 伊勢神宮神苑 肥後菖蒲・江戸菖蒲・伊勢

菖蒲など約百数十鉢が国華会員により献花される。15日(土)~25日(金) 月次祭 伊勢神宮(外宮・内宮ほか) 6月と12月に行う皇室と国民の栄えを祈る大祭。24日(木) 伊勢神宮御田植式 伊勢市、伊勢宮 日本三天御田植祭のひとつ。問合せは 伊勢文化舎 伊勢市 伊勢文化舎代表 0596・24・1111

5日(祝) 児童福祉祭

児童福祉祭

児童福祉祭 伊勢市、児童福祉会による大祭。甘酒のふるまいや野点もある。5月上旬

1日(火) 御酒殿祭 伊勢神宮(内宮) 月次祭の御料酒がうるわしく醸造されるよう祈る。4日(金)~28日(月) 花菖蒲の献花 伊勢神宮神苑 肥後菖蒲・江戸菖蒲・伊勢

菖蒲など約百数十鉢が国華会員により献花される。15日(土)~25日(金) 月次祭 伊勢神宮(外宮・内宮ほか) 6月と12月に行う皇室と国民の栄えを祈る大祭。24日(木) 伊勢神宮御田植式 伊勢市、伊勢宮 日本三天御田植祭のひとつ。問合せは 伊勢文化舎 伊勢市 伊勢文化舎代表 0596・24・1111

伊勢周辺の催事

春~初夏 まつり&花

4月 4日(日) 神宮奉納大相撲 伊勢市、内宮神苑・神宮相撲場(神宮会館) 伊勢市神宮崇敬会 0596-22-0001

4月 10日(土)・11日(日) 鳥羽春まつり 伊勢市、大山祇神社・賀多神社 伊勢市観光課 0599-25-1157

4月29日(祝) 端午の節句 伊勢市、おかげ横丁 0596-23-8838

5月 5日(祝) 御田祭 伊勢市、猿田彦神社 0596-22-2554

夫婦岩大注連縄張神事 伊勢市、二見興玉神社 0596-43-2020

5月 7日(金) 石神さん春祭り 伊勢市、神明神社

5月 21日(金) 藻刈神事 伊勢市、二見興玉神社 0596-43-2020

6月 1日~7月4日(日) 高柳の夜店 伊勢市、高柳商店街 伊勢市観光課 0596-28-1101

6月 4日(金)~6日(日) 夏まちなまつり 伊勢市、おかげ横丁 0596-23-8838

6月 22日(火) 赤崎祭 伊勢市、赤崎神社 伊勢市観光課 0599-25-1157

6月 27日(日)~29日(火) 朝熊山開山忌 伊勢市、金剛證寺 0596-22-1710

伊勢市、松尾観音寺・朝熊山上公苑 5/2~16は朝熊山つつじ祭(朝熊山上公苑)を開催。

4月下旬~5月10日頃まで 伊勢市、太江寺 期間中は藤まつりを開催。

5月中旬 伊勢市、神宮ばら園

5月下旬~6月中旬 伊勢市、伊勢神宮外宮勾玉池・二見しようぶロマンの森

6月下旬~8月下旬 伊勢市、金剛證寺



神宮ばら園

花だより 桜 3月下旬~4月上旬 伊勢市内各所(宮川ラブリバー公園・音無山・五十鈴川ほか) ●サクラの咲く期間中は、各所でイベントを開催。4/1~11は春祭り(宮川堤公園)など

つつじ 4月下旬~5月上旬 伊勢市、松尾観音寺・朝熊山上公苑 ●5/2~16は朝熊山つつじ祭(朝熊山上公苑)を開催。

藤 4月下旬~5月10日頃まで 伊勢市、太江寺 ●期間中は藤まつりを開催。

ばら 5月中旬 伊勢市、神宮ばら園

花菖蒲 5月下旬~6月中旬 伊勢市、伊勢神宮外宮勾玉池・二見しようぶロマンの森

水蓮 6月下旬~8月下旬 伊勢市、金剛證寺

かつての旅人の足跡を辿りながら、お伊勢参りについて知る企画展。大阪から伊勢をめざす伊勢本街道を中心に三重県内の街道紹介、奈良大学の「宝来講」、「内宮おかげ参道」に描かれた屏風絵のにぎわいなどを展示する。また伊勢参りの衣裳をつけて記念撮影ができるコーナーや「落語でお伊勢参り」などのDVD上映もある。期間中には、関連する講座もおかげ座で予定されている。

6月12日(土)~7月19日(祝) 10時~17時 伊勢市歴史博物館2階 大黒ホール 伊勢市観光協会 0596・23・8838

夏 夏至の朝、二見浦では夫婦岩のまん中から太陽が昇る。二見興玉神社では早朝より祭典があり、日の出参拝とみそぎ行事が行われる。当日は、天気によれば富士山のシルエットが見えることも。なお5~7月中は、夫婦岩の間から出る朝日を拝むことができる。

●神社では一般のみそぎ体験参加を呼びかけている(参加料3000円)。詳細は問合せ。 伊勢市観光協会 0596・43・2020

●伊勢市観光協会 0596・43・2020



今年60年に一度のおかげ年

「平成のおかげ参り展」

伊勢を中心として活動する市民劇団の最新公演。毎回、伊勢にゆかりのある題材を扱い、今回は「おかげ参り」がテーマだ。往時のおかげ参りの様子や、旅人とそれを温かく迎え入れた伊勢の人々の心の交流を描く。チケットは、4月下旬より伊勢市観光文化会館ほかで販売。一般前売2000円、当日2500円。

6月19日(土) 17時30分開演 18時30分開演 6月20日(日) 13時開演 14時開演 伊勢市観光文化会館 大ホール 伊勢市観光協会 0596・4082・5480

●伊勢市観光協会 0596・4082・5480

近鉄特急で行く 伊勢神宮ゆかりの地を巡る

近鉄企画による神宮にゆかりのある伊勢志摩各地をめぐるツアー。各回、案内人として地元観光ガイドが同行し、参加者にはもれなく地元の名物餅などのお土産がもらえる。有料(料金は出発駅によって異なる)、事前に申込みのこと。

●伊勢市観光協会 0596・4082・5480

●伊勢市観光協会 0596・4082・5480